

永嶋暢子 ながしま 評論家、労働運動家。明治三十年一月十六日青森縣三戸郡北川村生れ、昭和二十一年一月四日歿（八七七一九四）。本名ヨネ。筆名新島まろ、木下淳子、松池美代、轟木歌、長島暢子、陸奥光代等。大正二年青森縣立實科高等女學校卒。九年平塚らいてう、劇むねのお、市川房枝等の新婦人協會に加はり、雑誌「女性同盟」に寄稿。十二年東京聯合婦人會を結成し、中びとあつて活動。昭和二年長谷川時雨主宰誌「女人藝術」第一號から評論等を書き、主要執筆者の一人となる。十三年渡滿、月刊滿洲社に勤務するなどしてゐたが、終戦の混亂の中で病死した。小説「おあづけ」、「李枝子」を書いた。

『批判を持つ愛の深さ』永嶋暢子著作集』（岩織政美編、平成六年八月一日永嶋暢子著作集刊行会）がある。

